

第7回 環境学習円卓会議 会議録

日時;平成22年8月24日(火) 19:00～

場所;市役所 秋葉2階ラウンジ

参加者;田中、吉永、加藤、大嶽、三村、高嶋、久木田(美)、草野、池崎

1、環境モデル都市に関する事業報告(事務局)

◆ゼロ・ウェイスト円卓会議(ステーション調査について)

6月末から8月中旬に35ステーションの調査が終了した。リサイクル推進員・円卓会議メンバー・ごみ女連・婦人会など総勢64名に参加頂いた。

(目的)

リサイクル中心の資源ごみ収集からゼロ・ウェイストの発生抑制に結び付けるための現状把握(今後)

座談会を行い「これからどういう活動をしていくか」など関係者にヒアリングをして年度内に報告書を作成する

◆環境モデル都市フェスタ

産業団地まつりの実行委員会と趣旨の違いが出てきたので、3月13日(日)に環境モデル都市フェスタを予定している。11月6日は現在あるパネルなどの出展を予定している。

2、紙芝居の内容について

事務局;ごみ女連で作られた紙芝居を改定するのはどうしたら良いか?という宿題についてだが、
全体の内容はいいが言葉が少し難しくゼロ・ウェイストの話が入っていないので入れられないか?という事だった

E ;これを作った人の話は今さらこれをしてどうか?全面的に違うものをした方がいいのではなか?という話だった。リサイクル推進員もゼロ・ウェイストの研修みたいなものをやるのか?

事務局;フェスタの中ではそういう話はでている

E ;そういう内容があるので、そういうのを基本にしてどう子どもに分かりやすく伝えるかだと思う

A ;大人版と子供版という事ですね?

D ;ゼロ・ウェイストの解説のパンフレットはどうなっているのか?と聞かれる。それも作らないといけないのも併せて進めた方がいい

A ;市民向けの冊子は何枚かラフ的なものがあるんじゃない?

事務局;アイウエオ順に並んだのがある。分別の手引きみたいなのを改定しようという話になっている。頭の部分にゼロ・ウェイストの趣旨を入れようという話で、分別表とは別にゴミの出し方、冊子になっているものがある。

D ;周知用だから、なるべく沢山作った方がいいと思うが冊子だと凄い予算になるのでは?

事務局;冊子の予算で取っているから、1枚にしてもかまわないし人材マップとゼロ・ウェイスト用の啓発の2つを考えている

A ;Q&A方式(ゼロ・ウェイストって何?)という形が一番わかりやすいのかな?と思う

事務局;紙芝居の方は「子供向けに分かりやすくする」意味合いと、フェスタの時に「子供たちを集めてやりたいからいいのではないか?」という事で、紙芝居の内容を見て使えるようであれば使って、難しいのであれば新たに作らないといけないという話だった

E ;1回だけ使って終わるつもりではないんですよね?小学校にあげるとか...

事務局;前回各学校に配ってはいるけど、使われてないみたい

E ;そのあたりが問題。折角作っても子供たちの目に触れないと意味ない。月に一回誰かが行って読むとか読み聞かせの時に読んでください!という位の事をしないとダメだと思う

A ;そうすると、変わってくると思う

B ;県で作った紙芝居は評判がいい。先生に頼んで授業で読んでもらっている。そういう風に面

白がってやってくれる先生が転勤になるとお蔵入りになるのが普通だから、そのあたりを支えてやってもらわないとダメだと思う

事務局;読み聞かせに使うのはいいと思う

B ;頼めばやってくれると思う。図書館で本を選ぶ時、紙芝居が得意な人はそれをやりますよ！
という感じでしている

事務局;今どこの学校でも読み聞かせをしてもらっているので、その辺で使えればいいなと思う

F ;紙芝居は長いというのもあるが話題が盛り込まれすぎていて、何が一番いいいいのか結論に辿りつくまで時間がかかってしまうので、これを4つ位に分けたらどうか？ A さんがおっしゃったように「学習マンガ」チックに子供目線でできないか？「ごみって何？」「ごみを減らさないとうなるんだろう？」「ごみを減らすにはどうしたいんだろう？」みたいな・・・

事務局;ゼロ・ウェイストを中心に考えるという事？

F ;トピックが多いので、「ごみってそもそも何なの？」っていう所から入ればいいのかと思う。学校で使うとしたら、授業の紙芝居だけで解決するものではないので、紙芝居＋先生が工夫して1時間授業をすると想定して紙芝居自体を考える事が大切だと思う(長さや内容を含めて)この前新聞で見たが、中国で使っている物が載っていて、会話ができるような紙芝居になっていてそういうのもいいな、と思った。ごみクイズとか・・・

事務局;内容も濃いですもんね

F ;3つ案があって①小田実由さんに頼む ②水俣高校に委託する ③公募する

A ;小田実由さんは絵でしょ？でも、中身は作ってあげないと。

F ;紙芝居を作ったと聞いたので

事務局;これ自体は作った時は「一杯書いといて、削れる所を削りましょう」というコンセプトで書いたと聞いた。言葉自体は多いし長いので一から作った方が簡単かな？というのはある。ゼロ・ウェイストを中心に考えて作り変える、或いはいくつかのパターンを考えてテーマやあらすじを決めておいて委託したり、高校生に委託したり、出来そうな人をお願いしたりする方法があると思うが、これをこのまま使うのは難しいという感じですね

D ;低学年・高学年・保育園・幼稚園といろいろある

事務局;紙芝居はある程度あらすじがあって、そこに付け加えていく考えの方が大きいのかな？と、話を聞いていて思った

E ;将来的には1年生から6年生のカリキュラムが出来上がっていてそれでやっていくんだ！というのでできればいい

B ; F さんが言った段階的なものはいいと思う(短いものをいくつか繋げる)

F ;5～10分が限度だと思う

C ;かぐや姫とかは長くていいが、こういうテーマで紙芝居にするなら他のワークショップなどする方がいい

F ;ドラマチックなストーリーにするのもいいかもしれない

事務局;子供たちに使うものは大人にも使えるかな？と思う

A ;精度の高いものは万人受けだと言われる

E ;ストーリーを F さんが考えて、絵をみゆ？ちゃんが書けばいいのでは・・・

B ;シンガポールの旅行者が考えてしていたことだが、来たお客さんにごみの分別をさせて合っていると景品をあげるとみんな真剣にしていた。授業で45分間構成してあげないとできないと思う

事務局;年間の計画は、環境省の計画でいいと思う。あれのどこに入れ込むのかを示して、人材マップにしても「こういう人がいるが、ここに入れれるんじゃないの？」という示し方が分かりやすいと思う。決まった方は決まった方で環境省がやっているとか文化省が認めているという方が学校は通りやすいと思う。そこにどう水俣のオリジナルを加えられるかが、人材であったりツールになると思う。お墨付きがないとなかなか学校は取り入れてくれない

B ;イメージは小学校5年生くらい？

事務局;中学年以降なので、4, 5, 6年生くらい。紙芝居の内容はコンペにしますか？

F ;時間があれば市報に出すなど公募がいいと思う(商品つき)。1人の頭で考えるのは限界がある。出来てるものでなくても、アイデアがあればいい

D ;色々なパターンがある方がいいので公募してみんなにも考えてもらえればいいのかも。

B ;どういう内容の紙芝居をするかが必要。今ここで話している内容と全く違うものが来る可能性もある。今は意図あっている。

事務局;図書館の「環境絵本」とどこが違うのか？ってなりそう

B ;それではダメだと思う。分かっていないゼロ・ウェイストを伝えようとしているので難しい事だと思う

事務局;いくつか考えてみましょうか？

C ; F さんの身近な人で興味を持ってやってくれそうな人はいない？

事務局;絵は役所の中でもかけそうな人はいらっしゃると思うが、ストーリーの構成だと思う。[いくつかストーリーを考えて、構成的な部分を積み重ねていく]という段取りでできると思う

F ;ここで考えても大人目線になるので、知らない人に入ってもらえるのかもしれない

B ;「ごみって何？」「減らさないとどうなる？」「減らすにはどうしたらいいの？」「ゼロ・ウェイストって何？」というのを、言いたい事言っていけばだいぶできるでしょ？

事務局;「ごみって何？」からいきましょうか

B ;日常生活のいろんな場面があり、今は使えているけど将来的にごみになるんだよ！！というような、日常生活を結び付けて示すと分かりやすいと思う

事務局;「自分にとっていらないもの」という感じ。自分にとってはいらないけど、他の人にとってはいるかもしれない！だからこれはごみじゃない・・・

E ;グリーンスポーツの海岸でごみを拾いなさい！と言ったりすると、木屑なども拾ってくるが、そういう自然のものはごみじゃない訳ですよ？プラスチックとかは自然の力で処理されませんよね。今の子供はそういう感覚では見ていない

B ;家の前に落ちてたら拾うでしょ？教えられていないからだと思う

B ;「ごみって何？」ってパッとと言われて思いつくのは包装紙。パソコンでも何でも沢山の包装紙が巻いてある。

D ;リサイクルできるものはごみって言わないんじゃない？

久木田;ほとんどがリサイクルできるでしょ？

A ;ごみは「負担を伴うもの」、資源は「逆有償」のものに置き換えている。水俣はごみの分別をやっているから負担が大きい。資源は有価物で民間で回せるしお金になる。

事務局;分別表には「ごみ」と書かないようにしている

A ;あたまたち2分別が出来ないのに、一生懸命分別してもごみが減るわけがない

事務局;そんな感じですか？

F ;難しい。。

A ;ごみと資源の考え方ですよ。もともとは民間で全部回っていたものを伝染病の事で生ごみを自治体が収集し始めた事からごみが始まった

事務局;そこを呼びかけにした方がいいかもしれないですね。水俣のごみ収集も最初はリヤカーだった

G ;昔はごみ収集車なんて来ないから、全部循環していた。ごみ自体が本当に少なかった

D ;自然のものが多かったが、今は廃プラなど石油製品が増えた

事務局;ごみの質が変わったとする？

A ;60～80代が「あ、そうだったよね？」というのがいいんじゃない？

事務局;「減らさないとどうなる？」についてどうでしょう？

A ;資源化するのも交通整理しているけど、交通整理のおまわりさんが「これくらい多かったですらで

きないよ～」という吹き出しとか・・・

B ; お金がかかるでしょ？

事務局 ; 燃やしたり埋め立てたりすると「汚れる」とか「お金がかかる」というのは入れた方がいいかもしれない

D ; 結局捨てるものにお金がかかっている

C ; ごみを燃やすと有毒ガスが出て空気も汚染され海も汚れるという感じで示すのがいいと思う。
お金がかかるというお金を払えばいいのか？みたいになる気がする

事務局 ; 「ごみを減らすにはどうすればいいか？」について

F ; ダイオキシンが難しい

E ; 暮らしの中で分かりやすく結びつくのがあると思う。子どもの中で分かりやすく結びつくものがあるんじゃないか？完璧にごみを無くすための紙芝居ではなくて、「どういう方向性でいけばごみが減るか」というきっかけになる紙芝居であればいいんですよね？これはいいことだ！というある意味洗脳みたいな感じも必要かと思う

A ; 最初の段階でごみがどういうものか分かってきて、減らそうというときに「はみがきのチューブが箱に入っていて、

「この箱はいるの？」

「いらないでしょ？」

「じゃーつけないでよ」

「つけなかった方が安くなって得になる」

そういう所からごみを減らす意識を持たせる。大人はついているのが当たり前で売る方もつけていないと売れないという考えを持っているが、子供たちはそういう考えはない。だから、ごく自然に「こんなの必要なの？」という吹き出しが出てきて、それはすごく大事な事だと思う

E ; 歯磨きのが箱に入っていないと、輸送中に中が出たりしないのか？

事務局 ; たぶん輸送の問題だと思う。いらないものを買わないっていうのも必要だと思う

A ; 何がいらないものか分かりづらい。これが本当に必要なの？という疑問符から入る方が分かりやすいと思う

G ; 日本の過剰包装の実態は甚だしいですよ

事務局 ; 無駄にしない！というようなものもいるのかな？と思う。折角買ったのに無駄にしているとか。ごみとしては多い気がする

D ; 箱は容器包装でリサイクルできるからいいんじゃない？

事務局 ; 生ごみのイメージがあるが、安いから一杯買って結局冷蔵庫で腐らせるとか・・・

F ; リサイクルするからいいや！という話で紙パックをやめてビンにしようみたいな感じは？

事務局 ; それだと比較の話になってしまうので難しい気がする

D ; 牛乳瓶は今店に返すの？

事務局 ; 預かりをしている所はある

E ; ビールは絶対ビンがいいという結論に達した。安いから。

D ; 昔はアルミとスチールの見分けがついたが、今は見分けがつきにくい

E ; ビンや缶やペットボトルは子どもたちにとって凄く近いものだが、どう説明するか・・・

事務局 ; それはリサイクル編みたいなのを作った方がいい気がする

E ; お茶なんかは茶飲み場とかで結び付けられる

F ; これだけのお茶葉で自分で入れるとごみは出ないけど、ペットボトルを買ってこれだけ出るとか。。

事務局 ; 減らすのは難しいですよ

D ; 食べ残しをしないと・・・

事務局 ; 「ゼロ・ウェイストって何？」についてどうですか？ ゼロ・ウェイストの中で具体的な話になるのでは？ごみを減らすと似ていますよね

B ;全体でゼロ・ウェイストを説明するという形？

E ;水俣市がやろうとしていることを、子供たちに分かってもらわないといけない

事務局;例えば焼却炉をなくすとか？

D ;目標年度はいつでしたっけ？

事務局;2026年です

C ;自分たちの住んでいるところの行政がこういう事をやろうとしているんだという事を知ってもらわないといけない

A ;キャラクター作らないといけないよね？

事務局;今、ちゃりぞ〜と茶のみ婆(ばあ)とRじいがあります。

では、紙芝居はそんな感じでお願いします。紙芝居の内容についてはFさんを中心に皆さんも考えてみてください

3、人材マップの作成について

事務局;人材マップとゼロ・ウェイストの冊子の話ですが、以前の話では、(ごみの方の便利帳)アイウエオになってる分け方出し方が必要かな？いるものいらないものを選別してゼロ・ウェイストの話を載せたらいいのではないか？という話をした

A ;包装代などいらないものにいくらかかっているのか？ペットボトルは1本の収集の経費はいくらでいくらで売れていてプラスになっているのかマイナスになっているのか？を出すといいと思う。大人向けで。

B ;環境センターにある包装紙の展示は分かりやすい

事務局;これは生ごみの時に作ったもので若干変わってきている

A ;これは1世帯あたりとかで出ているが、もうちょっと細かくしたものがいいと思う

事務局;会計的なものはクリーンセンターにも話はしている。反映できるものであれば入れたいと思うがあまり多くても難しいと思う。何かある時に、分からない時に見てください！という感覚で出している

A ;違う意味で出したい

事務局;こういう冊子の方がいいのか、ゼロ・ウェイストを全面的にしたチラシがいいのか？

D ;冊子にして全戸に配れる？

事務局;予算的にはとっている

D ;分別してリサイクルにいく、その先が分からない。上勝なんかは、これはどういう風にリサイクルされるか明記してある。そこをしっかり書いた方がいいと思う

F ;今の分別表はそこまで入っていたと思う

A ;福田さんが心配しているのは、今までやってきた人(リ推や年配の方)がしてきた事が無駄だったのか？また、減らす方向になると指導して分別して生きがいみたいに行っている人も一杯いるから、そういう人達のことを心配している

D ;費用のこともあるが、エネルギーのことなども併せて説明すればいいのでは？

A ;資源化する水俣の段階ではどうなのか？を示す方が分かりやすいのではないかと(市民には)日常の税金の使い道になると、他の部署はどうなの？という話が出てくる

事務局;町田の冊子は字が多くて見にくい。会計的な部分を入れるとなると、ページ数的に足りないと思う

B ;50音はいれるの？

事務局;入れるかどうかを考えている。2つは難しいので、ゼロ・ウェイストの方が重要だとなるとそっちに振り替えてやった方がいいと思う(予算的に)

A ;ゼロ・ウェイストのを作って出して、同じ趣旨の便利帳が出てきて出し方がどうのこうのと出てくると出した方がいいの？出さない方がいいの？という話になると思う

B ;白黒ですればいいのでは？

事務局;全世帯が使っているのか分からないし、リサイクル推進員や必要なだけでもいいのでは？

という話もある

D ;あと、転入してくる人

事務局;転入の時配っていたが、今は配っていない。50音は別で、ゼロ・ウェイストをチラシ形式にする形でいいですか？ 人材マップは授業で使えるようにしたい。学校の意見とか学校でゲストティーチャーとして来られている人とかで学校でどういう人が必要かというアンケートを取りたいと思う。今あるやつで地域の方でどういう人がいますか？という事を出してもらって作っているのが本当に必要なのか？という人がたくさん入っている。もう少し実践的に学校で使ってもらうには作業が必要である。

D ;環境の事に限らず全般という事？

事務局;だいたい前に作っているで亡くなられている人も多い

D ;学校で講師として行っている人とか？

事務局;学校で求められる(こういう人が必要だ)人とかほしい。皆さんと知っている人と併せて作りたいと考えている

D ;ゼロ・ウェイストの所に子どもが分かるようなものをあげて作ったらいいと思う

E ;家庭に配るか学校に配るか考えてからじゃないとダメでは？

事務局;ゼロ・ウェイストについては各家庭に配りたいと考えている

B ;このレベルでいけばいくらぐらいかかるの？ 配っても読む人は2割だからね。

事務局;去年のCO2削減の温暖化のものは地域に出て行って、配ってほしい人に渡している

B ;子どもでも読む内容にしておけば、読む大人は増えると思う

F ;You Tube で流すとか？

事務局;メディアの方は考えてみましょう

A ;ゼロ・ウェイストを一緒にしましょう・考えましょうという内容ね。どんなことが課題でこんな風にしますみたいな・・・

事務局;ゼロ・ウェイストの方は考えてください

D ;HPは？

事務局;HPは容量が足りないと思う

人材マップの方は学校にアプローチをかけていきます。ゼロ・ウェイストは宿題にします。どういう形がいいのか？どういうアプローチがいいのか？参考になるものがあれば持ってきていただければ。

D ;人材マップは今年度中？

事務局;作りたいですね

D ;ゼロ・ウェイストが定着するようにいろんな所にポスターみたいに貼るとか。

A ;マスコットがいるよね？ワッペンですとか。水俣では当たり前のようにつけているようなものが定着するといいですね。

事務局;方法については、次回そこを視点にやりたいと思う

4、その他

事務局;9月の市民講座は第一弾・第二弾で行う

第一弾;「作ってみよう！リ・グラス&ろうそく」

火のまつりで使うリ・グラスとろうそくを作ります。ろうそくは菜種油から作る。

9月8日(水)午後1時半からリ・グラス工房びんの風で、参加費は材料代として500円ですが、作ったり・グラスとろうそくはお持ち帰り頂けます

第二弾;「みなまた愛す(アイス)プロジェクト」

地産地消推進を目的に、水俣の食材を使ってアイスクリームをつくる。小さい子どもも参加できるようにしている。9月12日(日)午後1時半から公民館3階調理室で、材料費として300円かかる。

次回日程; 9月30日(木) 19:00～ *場所は追って連絡する